

大卒者・高卒者間の相互不信と大学教育への支持

——科学観・高等教育観の計量社会学——

東京大学 大崎裕子

1 目的

本報告の目的は、大卒者・高卒者間の相互不信が大学教育観にもたらす影響を明らかにすることである。近年欧米諸国で分断社会化が注目されるなか、日本では学歴による社会分断が指摘される（吉川 2009）。大卒者・高卒者間の関係性の断絶がもたらす両者の相互不信は、大学教育観への影響を通じて、両者の分断をさらに強化する恐れがある。そこで本報告では以下の仮説を検証する。

仮説 1 高卒者の大卒者に対する不信は、大学教育への支持を阻害する。

仮説 2 大卒者の高卒者に対する不信は、大学教育への支持を促進する。

2 方法

データには「学歴間相互不信と教育意識に関する調査」（2019年3月実施、ウェブ調査）をもちいる。対象者は調査会社モニターに登録している25-64歳の男女（性、年齢、学歴、都市規模について2010年国勢調査に比例割り当て）で、1,964名（57.2%）から有効回答を得た。このうち高卒者721名と大卒者634名を分析対象とし、中学、専門学校、短大・高専、大学院卒者は分析から除いた。

自身と異なる学歴層への信頼は、「自分よりも高／低学歴の人への信頼」から「同学歴の人への信頼」を引き、3値化してもちいる。高卒者の信頼の分布は、「大卒者を低く信頼」11%、「大卒者を高卒者と同じだけ信頼」80%、「大卒者を高く信頼」10%であった。大卒者の信頼の分布は、「高卒者を低く信頼」28%、「高卒者を大卒者と同じだけ信頼」70%、「高卒者を高く信頼」2%であった。

大学教育観には、「子どもには大学以上の教育を受けさせるのがよい」（そう思う14%、どちらかといえばそう思う46%、どちらかといえばそう思わない32%、そう思わない8%）をもちいる。

3 結果

自身と異なる学歴層への信頼と大学教育観の関連を高卒・大卒者別に分析した。図のように高卒者による大卒者への信頼ごとの大学教育の支持に大きな差はない。一方高卒者を低く信頼している大卒者は大学教育への支持が顕著に高い。大卒者と高卒者を同じだけ信頼している人を基準カテゴリとし、性別・年齢等の基本属性と学歴格差感を統制して回帰分析をおこなった結果、「高卒者の大卒者に対する低信頼」の負の有意な効果、および「大卒者の高卒者に対する低信頼」の正の有意な効果が確認された。

4 結論

以上の結果は、上の2つの仮説を支持している。大卒者・高卒者間の相互不信は、大学教育観に関する両者の対立を深め、分断の解消を難しくしている可能性がある。

付記 本研究は、科学研究費補助金（課題番号：18H05727）の助成を受けたものである。

文献

吉川徹, 2009, 『学歴分断社会』筑摩書房。